

丸山集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成21年 4月 1日
修正日：平成 年 月 日

市町村名	伯耆町	組織名	丸山集落営農組合
1 地区の範囲 伯耆町 丸山地区（半川地区含む）			
2 地区の概要			
水田面積	49.17ha		
主な水田栽培作物	水稲（コシヒカリ、ひとめぼれ、山田錦、もち）、白菜、大根、里芋、白ねぎ、スイカ等		
農家数	71戸		
認定農業者数	1経営体		
地域水田農業ビジョンの担い手数	2経営体		
3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。） ・設立時期（規約等の制定日）【平成18年12月 1日】			
	組織形態（該当形態に ）	加入農家数	
【現状】前年度実績 （20年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未組織 ・ 作業受託型 ・ 共同利用型 <input checked="" type="radio"/> ・ 協業経営型 	66戸	
【目標】事業開始翌年度 （22年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同利用型 <input checked="" type="radio"/> ・ 協業経営型 ・ 作業受託型 	67戸	
4 集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
項 目	【現状】	【目標】	
集 積 面 積	47.85ha	48.74ha	
うち経営及び作業受託	47.85ha	48.74ha	
対象水田面積 A	49.17ha	49.17ha	
集 積 率 / A	97.3%	99.1%	
うち経営及び作業受託 / A	97.3%	99.1%	
注1) の集積率の目標は採択要件。50%超が必要。 2) の作業受託による集積率の目標が、50%超の場合は事業費上限10,000千円、50%以下の場合は事業費上限5,000千円。 3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。			

I 集落営農に対する基本方針(詳細は、別添の丸山集落営農目標のとおり)

(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標

担い手の明確化

農業者の高齢化等によって担い手が不足し、個人毎のほ場管理には、限界が見えてきていたことから、平成18年12月に丸山集落営農組合を設立。

この丸山集落営農組合が主体的な担い手となり、水稻を中心とした農作業の受託をさらに拡大し、集落営農を推進するとともに、組合員の合意を得ながら、平成23年度を目標として法人化を目指す。

そのためには、機械施設を整備進めていくとともに、6名程度のオペレーターの育成、確保を図っていく。

そして、オペレーターの内1人については、丸山生産森林組合の作業等と連携しながら、年間雇用の常勤体制を確立を目指す。

また、農協や機械メーカー等の研修に積極的に参加し、オペレーター等の技術の向上、習得及び農作業安全に努める。

水田利用集積目標

集落内全水田のうち、不在地主でかつ狭小なほ場を除いた48.74ha(集落内全水田の99.1%)の集積を目標とし、現在不参加の1戸の賛同及び参加を得ていく。

(2) 水田作付け計画、生産調整の方針・具体策

水田作付け計画等

水稻

八郷米のブランド化と稲作所得を増大させるため、八郷特別栽培米を年次拡大させるとともに、これを柱に環境にやさしい米づくりを推進し、JAアスパルで販売を始めた、八郷なたね米も同様に拡大する。

この他、酒米、もち米など多様な品種の栽培によって、販売力を強化する。

一方、米の販売についてはJAを中心に行うが、なたね米など提案型の販売やネット販売にも挑戦する。

野菜など特産品の育成

JAを中心に市場販売する白ねぎ、すいか、白菜等のほか、アスパラガス、里芋等少量多品目にわたる産品を充実させ、集落内にあるガーデンプレイスで、消費者の動向をふまえて直販する。

特にガーデンプレイスへの直売参加者の拡大措置を講じていく。

加工仕向け

併せて、水田で作付けされた作物を活かし、現在、集落内の加工施設を利用してもち加工やミソづくりを行っており、23世帯が参加しているが、さらに拡大するとともに漬物、米加工、豆加工など新しい分野の加工商品の開発も手がけていく。

水田作付け計画

単位 アール

		実績		計 画			備 考				
		19 年	20 年	21 年	22 年	23 年					
米の品種別作付	コシヒカリ	2,940	2,848	2,920	3,000	2,980					
	ひとめぼれ、ヒカリ新世紀ほか	118	110	120	140	160					
	酒 米	166	236	280	280	280					
	もちほか	75	77	80	80	80					
	計	3,299	3,271	3,400	3,500	3,500					
参考	水田面積	4,901	4,917	4,917	4,917	4,917					
	作付可能面積	3,404	3,532	3,500	3,500	3,500					
内特裁	八郷特裁	249	358	400	450	500					
	なたね米	0	250	350	400	500					
主な野菜	ねぎ	70	}	}	}	}					
	白菜	200									
	すいか	60									
	大根	150									
	とまと	60									
	なす	60						1,000	1,000	1,000	1,000
	かぼちゃ	50						注 野菜の作付は現状維持とするが、JA出荷の内白菜、ねぎは若干拡大する。 地場直販で人気の高い里芋は拡大する。 その他の内アスパラガスを特産とする。			
	ピーマン	50									
	里芋	100									
	甘藷	100									
その他	80										
大豆	200	180	200	250	250						
花卉	花壇苗(本)	30,000	25,000	25,000	25,000	25,000					
	切花その他	30	30	40	40	40					
景観作物	なたね	1,050	1,010	1,100	1,100	1,100					
	内種取	20	20	30	40	50					
	れんげ	37	300	300	300	300					

生産調整の方針・具体策

伯耆町水田農業推進協議会から提示された、米の生産目標数量(作付け目標面積)を基本に、丸山集落営農組合内の調整を図り、水稻の作付可能な面積については、できるだけ水稻を作付けし、稲作所得の向上を図る。

また、転作水田においては、丸山集落営農組合の各組合員の意向をふまえ、JA出荷やガーデンプレースでの直売用及び加工用等作物作付を推進する。

併せて、なたね及びれんげの作付による景観形成並びに地力増進に取り組む。

(3) 農業用機械施設の効率利用について

丸山集落営農組合で、トラクター、田植機、コンバイン及び車庫等の必要な大型機械・施設を整備し、オペレーターを育成確保し、併せて、JAの基幹施設の活用を主体に、水稻の収穫期等においては、トラックの短期リース利用を図るなど、組合員の要望をふまえた、効率的な作業の推進と農業用機械施設の効率利用に努めていく。

これにより、水稻に関する機械施設については、個人投資を極力抑制し、生産コストを低減を図っていく。

農業用機械施設の整備方針

1 本事業で導入する機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月
トラクター	34PS	1台	3,448,000	21年4月
田植機	5条植え 5条植え(中古)	1台 1台	2,138,000 285,714	21年4月
水稻コンバイン	3条刈り	1台	4,764,000	22年8月

(注) 販売店等の競争を促し、中古機械の導入も図り、総予算額を1000万円以内に抑えるように努める。

2 機械施設の導入計画

	計 画					投資額 (千円)
	実 績 19年	20年	21年	22年	23年	
トラクター						3,620
田植機						2,550
コンバイン						5,000
自走式草刈機		4台				
畦ぬり機						
車庫						7,500

印が県、町の助成対象(多様な集落支援事業)として計画は自力で整備

(注) 販売店等の競争を促し、中古機械の導入も図り、21年度22年度の機械導入総予算額を1000万円以内に抑えるように努める。